

宮前区の
ミライを考えるさぎぬま
プロジェクト

区長と語ろう「宮前区のミライ」

～中学生20人と宮前区のミライについて考えてみました～

10月9日(火)の「かわさき家庭と地域の日」にあわせ、区内8中学校の中学生20名が宮前区長と宮前区のまちづくりや自分の将来のことなどについて、区役所会議室で意見交換を行いました。

★プログラム ～自分と地域との関係を考え、ミライを語ろう～

世界のミライ	日本のミライ	川崎のミライ	宮前区の現状	宮前区のミライ	自分のミライ
[STEP1]	[STEP2]	[STEP3]	[STEP4]	[STEP5]	[STEP6]

- 「皆が生きていく社会は、これからどうなっていくのだろうか？」という切り口で、今、世界で起きている様々な問題や、日本や川崎市で近い将来起こりうることを学びました。
- 次に、地図を見ながら自分にとっての地域の範囲をイメージしたうえで、鷺沼駅周辺で計画されている再開発について説明し、今、大人たちが考えているので、皆も一緒に考えてほしいと呼びかけました。
- 最後に、中学生の活動範囲は限られているが、5年後に高校生になり、10年後には仕事をし、20年後は子どもがいるかもしれないなど、年を重ねるなかで広がる世界を想像しながら、「将来、宮前区外に出ることがあっても、また戻って暮らしたいと思うようなまちにするにはどうしたらいいか」などを話し合いました。

【主な意見】

考え方が違う人がたくさんいて、いろんな意見を聞いて楽しかったです。私の考え方も変わったり、「もっと良い方法があるはず」と思うこともありました。考え方が広がりました。これからできるのが楽しみです（できるか分かりませんが・・・）。

普段、考えない事を考えたりすることで宮前区の良さ、課題がどういうものなのか知ることができました。宮前区民の人が宮前区の良さを知られていないことがあると思うので、区民の皆が知られるようなものを作った方がいいと思います。

10年後、20年後の宮前区がより便利で誰もが使いやすいように話し合えたと思います。それを活かしていきたいし、実現するためにも、今の自分が考えられることはやっていきたいです。

自分の地域、またミライの事は、今まで考える機会がなかったけれど、今回の活動を通して自分なりに意見を出したり、他の人の意見を聞くことができたのでは、自分にとってとても貴重な体験だったと思います。自分が直接プロジェクトに関わることはありませんが、地域との支え合いを意識して、よりよいミライを作っていきたいです。

この会を通して、現状の知らないことなどを知ることができ、少し難しかったけれども新鮮でした。父が仕事へ行く時の話を聞くと、バスの本数は多いが、道路が混んでいると言われました。交通のところをもっと改善してほしいと改めて思いました。

日常生活で今後のことを考える機会はあまりなかったもので、少しでも考えることができて良かった。具体的な提案も挙がっていて、様々な視点から考えられていて、より良い町になっていくのかなと思った。

★区長から ～実施のねらい～

市が進める「宮前区のミライを考える さぎぬまプロジェクト」では、宮前区の将来像や鷺沼駅前にどんな公共機能があるべきか検討を進めていますが、「子どもたちの声も聞いてほしい」との意見が出されました。

元中学校の教員だった私としては、中学生にとって意味ある取組とするためには、単にアンケートを取ったり、学校に頼んで話し合いをしてもらったりする方法ではなく、今の自分自身や将来の自分を見つめながら、住んでいる地域や宮前区のことを考えるような機会を設けることが大切だろうと考えました。

そこで、川崎市の学校で進めている「キャリア在り方生き方教育」も踏まえ、「かわさき家庭と地域の日」に自分自身と地域との関係を改めて見つめるひとつの機会として、「宮前区のこれからのまちづくりについて考えることや望むこと」や自分自身のこれからのことについて、他校の中学生とも交流しながら考えるよい「学びの場」になることも期待して、このような会を開くことにしました。

宮前区長 小田嶋 満

